

日本語・日本語 教育を研究する

第25回

このコーナーでは、これから研究を目指す海外の日本語の先生方のために、日本語学・日本語教育の研究について情報をおとどけしています。今回のテーマは「年少者に対する日本語教育」です。

年少者日本語教育とは？～日本国内外での傾向と取り組み～



東京外国語大学留学生日本語教育センター教授 柏崎 雅世

1. はじめに

国際交流基金の『2003年海外日本語教育機関調査』によると、海外の日本語学習者数は2,356,745人（1998年調査の12%増）で、そのうち64.8%が初等・中等教育機関の学習者であり、前回調査（1998年）と比べて10.6%増加しています。このように年々増加している年少者に対する日本語教育ですが、成人と年少者では、学習動機、学習者の成長過程における言語の認知能力、習得のプロセスが異なるため、教授法、クラス運営、評価などすべてにわたって、成人学習者を対象とした日本語教育とは異なるアプローチが求められます。

2. 年少者とは

「年少者に対する日本語教育」とはどのような対象をさしているかをまず明確にしておきましょう。

① 世界の年少者に対する日本語教育

1) 外国語教育(JFL:Japanese as a Foreign Language):

学習者の母語は日本語ではなく、広くは幼児、小学校・中学校・高校（初等・中等教育機関）までの生徒を対象としています。学習者は、社会・家庭・学習で用いられる言語が母語と一致する環境にいます。

2) 継承日本語教育(JHL:Japanese as a Heritage Language):

海外在住の日系人子弟で母語はすでに日本語ではない児童生徒を対象として、両親や祖父母の母語（日本語）を継承するための教育です。子どもが社会や学習で用いる言語は母語ですが、少し家庭や地域で学習言語（日本語）に触れる環境があります。

② 日本滞在の外国人児童生徒の日本語指導

第二言語教育(JSL:Japanese as a Second Language):

日本滞在の母語が日本語ではない児童生徒で、社会・学校は日本語の環境です。家庭では母語を使用します。

最近では日本で「年少者の日本語教育」と言えば②を指し、活発な研究や実践報告が多くなりました。しかし、上に見たように、様々な年少者に対する日本語教育があ

ります。そこで、年少者について論じる時には、対象を明確にする必要があります。

3. 世界の年少者に対する日本語教育

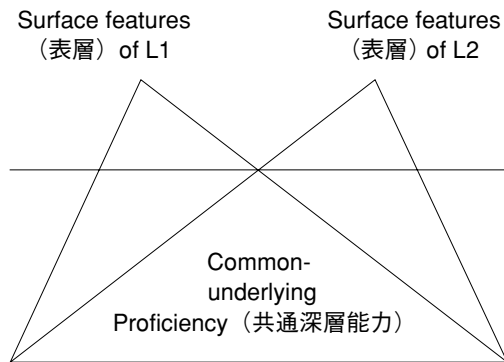
日本語学習者が増加してきた背景としては、個人レベルでは最近のアニメーション・マンガ・ポップカルチャーの人気がその背景として考えられますが、一方、アメリカやオーストラリアに代表される各国の言語教育政策の中に日本語も取り上げられていることが大きいと言えます。

アメリカ合衆国では1999年“Standards for Foreign Language Learning in the 21st Century”が発表され、外国語学習の指針が示されました^(注)。その外国語の一つに日本語も含まれています。その中で外国語を学ぶ利点は「①母語・言語一般に対する理解が深まる、②母国と他の言語・文化への感受性が豊かになる、③他文化の知識・情報が得られる、④自己の言語・文化とのギャップから文化の独自性に気づく」であるとしています。すなわち外国語学習は、言語を始めとする社会・文化の多様性への気づきとともに自己の言語・文化・社会への理解につながるものであると考えていることが分かります。これはオーストラリアのLOTE (Language Other Than English) 政策に基づいて出されたAustralian Language Level (ALL) Guidelinesでも見て取れます。初等・中等教育の言語学習の目標はコミュニケーションを中心に、他文化を理解するとともに自文化への洞察も深めることだと考えられています。これは、米・豪だけでなく、世界各国の日本語教育ガイドライン(国際交流基金2004『世界の日本語教育〈日本語教育事情報告編〉』第7号)にも共通したものが見出されます。

一方、オーストラリアのNSW州を中心に、成長過程にある学習者の認知力やコミュニケーション能力を高める外国語教育を進めることは同時に、自言語におけるリテラシースキルを伸ばすことにもなるという捉え方をしているところもあります(2004年日本語教育国際研究大会

矢崎満夫氏報告)。この考えはCummins, J and M.Swain (1986) の共通深層能力 (Common-underlying Proficiency) の考え方に基づいています。この考え方は言語教育の中でも、大きな成果を挙げていると言われるイマージョンプログラム (Immersion Program) や日本滞在の外国人児童生徒の日本語指導でも重要なキーワードになりますので、次にこの考えを見てみましょう。

4. 共通深層能力とイマージョンプログラム



The “dual-iceberg” representation of bilingual proficiency
From Cummins, J. and Swain, M. (1986) *Bilingualism in Education*.

いわゆる二重氷山説とも言われるもので、表層ではその形、音声、文法などまったく異なって表れる母語 (L1) と学習言語 (L2) ですが、表層に表れない深層においては、その概念や認知、言語使用の理解などが共通しているという考え方です。二言語相互依存説の根拠になっています。L1で、ある概念の認識ができていて、それを共通の深層能力として、L2の学習を支えることができるということになります。この理論に基づいて、アメリカ・オーストラリアなどでは学校教育の一形態として日本語イマージョンプログラム (Immersion Program) を実施しているところがあります。イマージョンプログラムとは、母語ではない学習言語 (日本語) を使用して教科指導を行います。学習言語の環境に漬かる (immerse) ことによって、高度な認知能力や学力を身につけるとともに外国語 (第2言語) を習得するプログラム (Cummins and Swain 1986, Cummins 2000) で、バイリンガル教育の観点からの研究 (中島1998) も進んでいます。

このプログラムが成功するためには、周囲の条件が整っていることも大切で、これからも研究が進められる必要があります。

5. 日本滞在の外国人児童生徒の日本語指導

1990年代以降、日本における外国人居住者の増加に伴い、日本の学校教育において日本語指導の必要な外国人児童が増えてきました。この研究や実践報告としては、大きく分けると、1) 地域を含めた学習・生活支援、2) 学

校・教室現場における日本語指導 (教授法・カリキュラム・教材) などがあります。この分野では、来日後の生活日本語を中心とする初期指導 (1～2年) の問題、そしてその後の高度な認知力を必要とし、文脈的サポートが少なくなる教科学習のための言語 (習得に5～7年かかるといわれる) を、どのように支援していくかという問題とがあります。文部科学省からはJSLカリキュラムの報告書 (2003) が出ましたから、今後はその実践報告に期待したいところです。一方、原学級 (日本人児童と一緒にのクラス) における教育支援カリキュラムの作成も進んでいます。さらに学校外の地域で、ボランティアによる日本語指導や外国人児童の母語を話す母語保持支援などの取り組みも少しずつ進んできました。この学習支援としては二言語相互依存説による「教科・母語・日本語相互育成学習」モデルに基づいた支援実践報告などいろいろ出ています。

6. おわりに

年少者に対する日本語教育は、世界と日本国内という違いはあっても、共通していることは「多文化理解と共生」および「社会文化を含めた言語リテラシー教育」にあると言えるのではないのでしょうか。世界各地で漢字や語彙の指導、教師のピリーフの問題等、様々な視点からの研究・実践報告もすでに出ています (国際研究大会2004)。今後、さらに多くの研究・実践報告を積み上げていく中で、年少者に対する日本語教育学の構築が可能になっていくと思います。

注

日本語部分はハワイ大学聖田京子教授が翻訳し基金 HP に公開
http://www.jppe.go.jp/j/urawa/world/kunibetsu/syllabus/pdf/sy_honyaku_9-2USA.pdf

基本的な参考文献

- 国際研究大会ワークショップ資料 (2004)
<http://wwwsoc.nii.ac.jp/nkg/kokusai/2004/workshop.htm>
- 中島和子 (1998) 『バイリンガル教育の方法 - 12歳までに親と教師ができること -』アルク
- 文部科学省 (2003) 『学校教育における JSL カリキュラムの開発について (最終報告)』
- Cummins, J. and Swain, M. (1986) *Bilingualism in Education*. Cambridge University Press
- Cummins, J. (2000) "Immersion Education for the Millennium: What We Have Learned from 30 Years of Research on Second Language Immersion."
<http://www.iteachlearn.com/cummins/immersion2000.html>